

2 セットアップガイド UIDE-133R2

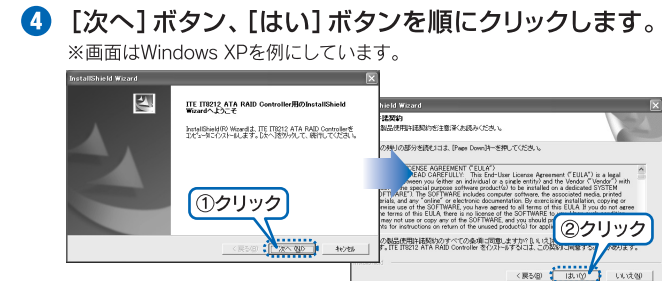
B-MANU200123-02
M-MANU200102-02

注意 本製品のセットアップ作業を説明しています。手順にしたがって作業を行ってください。取り付ける前に本製品のシリアル番号(S/N)をメモしてください。(別紙①はじめにお読みください)の(箱の中には)参照

1 インストールする

注意 ●本製品をパソコンに取り付ける前に行ってください。
※本製品のインストール作業が終了するまで本製品は使用できません。
●Windows XP/2000の場合は、コンピュータの管理者(Administrator)権限のユーザーでログインしてインストールしてください。

- 1 本製品を取り付けていない状態で、パソコンの電源を入れます。
- 2 「サポートソフト」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 3 [マイコンピュータ]を開き、[UIDE133R2_xxx] → [Setup]アイコンを順にクリックします。



- 4 [次へ] ボタン、[はい] ボタンを順にクリックします。
※画面はWindows XPを例にしています。



[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]をチェックしたまま、[完了] ボタンをクリックした場合、パソコンが再起動されます。そのまま以下の⑤の手順へお進みください。

- 5 以下の画面が表示された場合は、[いいえ、あとでコンピュータを再起動します。]をチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。
- 6 「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。
- 7 Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。

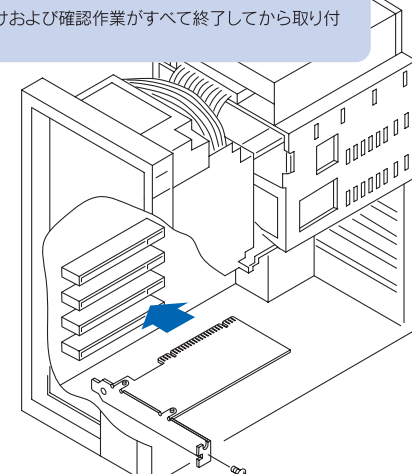
注意 ●ここではまだ本製品にハードディスクは接続しないでください。
※本製品の取り付けおよび確認作業がすべて終了してから取り付けてください。

2 パソコンに取り付ける

●本製品をパソコンのPCIバススロットに取り付けます。

- 1 パソコンの周辺機器および本体の電源を切り、パソコンの電源ケーブルをコンセントから抜きます。
- 2 パソコンのカバーを外します。取り外し方法はパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。
- 3 パソコンのカバーを外します。PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットに本製品を取り付け、取り外したネジで固定します。(PCIバススロットの位置などについてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。)

注意 ●あとでハードディスクを接続するため、ここでパソコンのカバーを戻す必要はありません。ハードディスクを接続したあとにお戻しください。
●ハードディスクへのOSの再セットアップなどに関する「お問い合わせ」「保証」「サポート」は、弊社およびI/O DATA本体メーカーではお受け致しかねます。ご了承ください。



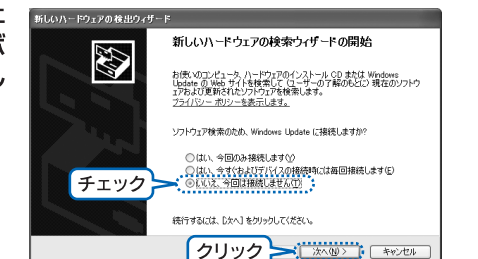
以上で取り付けは終了です。

3 パソコンの電源を入れる

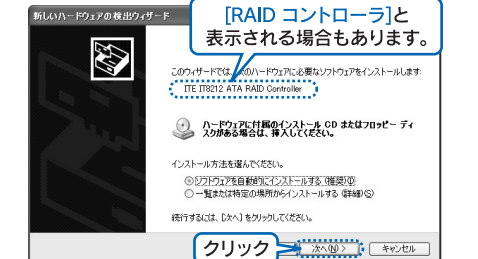
●パソコンの電源を入れ、以下の作業を行います。

Windows XPの場合

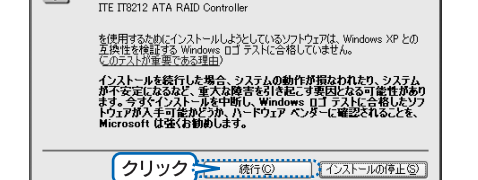
- 1 パソコンの電源を入れます。
●コンピュータの管理者権限のユーザーでログインしてください。
- 2 以下の画面が表示された場合は、[いいえ、今回は接続しません]をチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。



- 3 以下の画面が表示されます。[次へ] ボタンをクリックします。

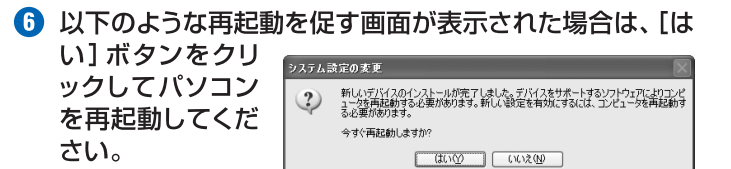


- 4 [続行] ボタンをクリックします。



注意 弊社製ソフトウェアが確認された時点でマイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器などを対象に認定手続きを実施しております。このたびお買い上げいただいた製品は現時点では認定を受けておりませんが、問題なくご利用いただけます。

- 5 [完了] ボタンをクリックします。



以上でインストール作業は完了です。右記の [4 取り付けを確認する] へお進みください。

注意 ●ここではまだ本製品にハードディスクは接続しないでください。
※本製品の確認作業がすべて終了してから取り付けてください。

Windows 2000の場合

- 1 パソコンの電源を入れます。
●Administrator権限のユーザーでログインしてください。
- 2 以下の画面が表示されます。[続行] ボタンをクリックします。

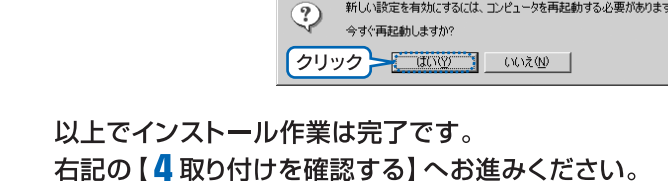


注意 弊社製ソフトウェアが確認された時点でマイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器などを対象に認定手続きを実施しております。このたびお買い上げいただいた製品は現時点では認定を受けておりませんが、問題なくご利用いただけます。

- 3 [完了] ボタンをクリックします。

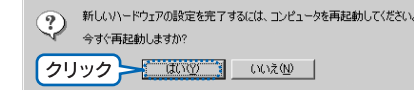


- 4 [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。



Windows Me/98の場合

- 1 パソコンの電源を入れます。
- 2 以下の画面が表示されます。[はい] ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。



4 取り付けを確認する

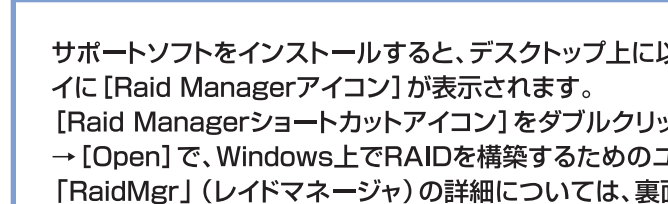
●パソコンの電源を入れ、以下の作業を行います。

Windows XP/2000の場合

- 1 [マイコンピュータ]を右クリック※して表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。
※Windows XPの場合は、[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリック
- 2 [ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
- 3 本製品が認識されていることを確認します。
①[表示]タブをクリックし、[デバイス(種類別)]を選択します。
②[SCSIとRAIDコントローラ]をクリックして以下が表示されていることを確認します。
[ITE IT8212 ATA RAID Controller]



上記が表示されていれば本製品は使用できます。次に本製品にハードディスクを接続します。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。



サポートソフトをインストールすると、デスクトップ上に以下のような[Raid Managerショートカットアイコン]、タスクトレイに[Raid Managerアイコン]が表示されます。[Raid Managerショートカットアイコン]をダブルクリックするか、タスクトレイの[Raid Managerアイコン]を右クリック → [Open] で、Windows上でRAIDを構築するためのユーティリティ[RaidMgr] (レイドマネージャ) を起動できます。[RaidMgr] (レイドマネージャ)の詳細については、裏面および別冊 [③リファレンス編] を参照してください。

Windows Me/98 (SE含む) の場合

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックして、表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリック後、[種類別に表示] をチェックします。
- 3 本製品が認識されていることを確認します。
[SCSIコントローラ]をクリックして以下が表示されていることを確認します。
[ITE IT8212 ATA RAID Controller]



上記が表示されていれば本製品は使用できます。次に本製品にハードディスクを接続します。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。

サポートソフトをインストールすると、デスクトップ上に以下のような[Raid Managerショートカットアイコン]、タスクトレイに[Raid Managerアイコン]が表示されます。[Raid Managerショートカットアイコン]をダブルクリックするか、タスクトレイの[Raid Managerアイコン]を右クリック → [Open] で、Windows上でRAIDを構築するためのユーティリティ[RaidMgr] (レイドマネージャ) を起動できます。[RaidMgr] (レイドマネージャ)の詳細については、裏面および別冊 [③リファレンス編] を参照してください。

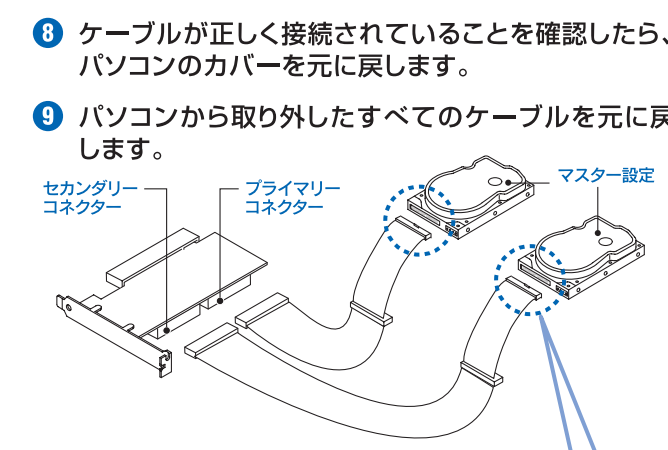
[スタート]メニューにも[Raid Manager]が登録されます。
[スタート] → [(すべての)プログラム] → [Raid Manager] → [Raid Manager] を順にクリックすることも[RaidMgr] (レイドマネージャ) を起動できます。

5 ハードディスクを接続する

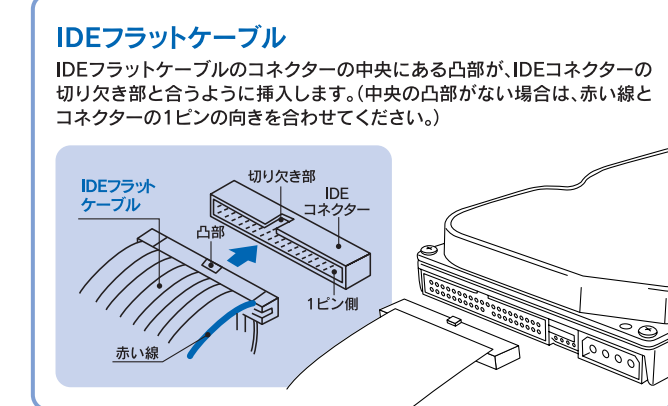
●本製品にIDEハードディスクを接続します。ここでは、本製品に2台のハードディスクを接続する場合を例にします。

以下をご留意ください。

- IDEハードディスク(2台)
●データはバックアップしておいてください。
※以前にお使いになっていた場合、大切なデータは元のハードディスクなどにバックアップしてください。
●RAIDを構成する際は、同じ性能・容量のIDEハードディスクを使うことをおすすめします。
※一般的にハードディスクは同じ製品名のもでも容量が異なることがあります。
●[マスタースレーブ]設定を確認してください。以下の手順では、2台のハードディスクを2台とも[マスター]に設定して接続します。設定については、各ハードディスクの取扱説明書を参照してください。
- IDEハードディスク取付用ネジ
IDEハードディスクをパソコンに固定するためのネジです。通常、IDEハードディスクに添付されています。
- 添付のIDEフラットケーブル(2本)
本製品とIDEハードディスクを接続するケーブルです。
※必ず添付のケーブルをご使用ください。



- 1 パソコンの電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、Windowsを終了し、電源を切ってください。
- 2 IDEハードディスクにパソコン内部の電源ケーブルを接続します。
- 3 添付の「IDEフラットケーブル」の端のコネクタにハードディスクを接続します。
- 4 IDEハードディスクを「IDEハードディスク取付用ネジ」でパソコンに固定します。
- 5 同様に、もう1台のハードディスクも上記②～④を行います。
- 6 1台目の「IDEフラットケーブル」を本製品の「プライマリコネクタ」に接続します。
- 7 2台目の「IDEフラットケーブル」を本製品の「セカンダリーコネクタ」に接続します。



注意 ケーブル接続時および接続後は、両端のコネクタからケーブルが外れていないことを再度ご確認ください。ケーブルが外れているとハードディスクを認識しない、パソコンが起動しない、などのトラブルの原因になります。

以上でハードディスクの接続は終了です。ハードディスクをご利用ください。(ハードディスクがフォーマットされていない場合は、一度フォーマットしてご利用ください。) RAIDを構築する場合は、裏面および別冊 [③リファレンス編] を参照してください。

注意 ハードディスクのフォーマット方法については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。また、Windows XP/2000でフォーマットする場合は、ハードディスクを「ダイナミックディスク」としてフォーマットしないでください。ダイナミックディスクとしてフォーマットした場合、ハードディスクを他のパソコン/OSで使用できなくなります。

ハードディスクの設定と接続位置

本製品にIDEハードディスクを4台まで接続できますが、接続する場合は、本製品のプライマリコネクタに[マスター]設定したハードディスク(プライマリマスター)から以下の順に接続します。

- 1台目のHDD → [プライマリマスター]
- 2台目のHDD → [セカンダリーマスター]
- 3台目のHDD → [プライマリスレーブ]
- 4台目のHDD → [セカンダリースレーブ]

注意 ●ハードディスクの[マスター][スレーブ]の設定は、各ハードディスクの取扱説明書を参照してください。
●3台以上接続する場合は、後で2台のHDDにミラーリング(RAID1)を構築する場合は注意が必要です。本製品でミラーリング(RAID1)を構築できる場合、[マスター]同士、あるいは、[スレーブ]同士でのみ構築できません。そのため、例えば、3台接続する場合は、1台を通常のIDEハードディスク、残り2台でミラーリングを構築する場合には、以下のような接続となります。
■接続方法: 通常のIDEハードディスクとして使用するハードディスクを「プライマリ」の[スレーブ]、残りミラーリング用の2台をともに「マスター」に設定後、「プライマリコネクタ」と「セカンダリーコネクタ」に接続

Windows版ユーティリティを使ったRAID構築例(ストライピングの構築)

ここでは、Windows上でRAIDを構築できるユーティリティ「RaidMgrユーティリティ」を使ってストライピングを構築する手順について説明します。(その他のRAIDの構築などの手順については別冊【③リファレンス編】を参照してください。)

注意 すでにOSがインストールされているハードディスク(パソコン起動用で使用していたハードディスクなど)を使ってRAIDを構築する場合、「RaidMgrユーティリティ」では絶対に行わないでください。必ず、パソコン起動時から操作する「Setup Utility」で行ってください。([Setup Utility]については別冊【③リファレンス編】を参照してください。)

参考 RAIDの構築は、「RaidMgrユーティリティ」および「Setup Utility」のいずれかを使用して構築できます。(詳細は、別冊【③リファレンス編】を参照してください。)

1. RAIDを構築するハードディスク

RAIDを構築するには、2台以上のハードディスクが必要です。以下にご注意ください。

●すべて同一メーカー、同一型番、同一容量のものをお使いください。

注意 ディスク容量の異なる複数台のハードディスクでRAIDを構築した場合、一番少ないディスク容量に合わせて設定されます。例えば、3台のハードディスクでストライピングを構築した場合、[1番容量の少ないハードディスクのディスク容量]×3のディスク容量のドライブとして設定されますので、ディスクに無駄が生じます。ただし、スパンニングの場合のみ、ディスク容量は各ハードディスクの容量を足したディスク容量となります。


●以前にお使いになっていたハードディスクの場合は、必ず別のハードディスクなどにデータをすべてバックアップしてからご使用ください。RAID構築後に、ハードディスクをフォーマットするため、データはすべて消去されます。

注意 RAIDを構築したすべてのハードディスクは、一度フォーマットする必要があります。ただし、ミラーリングの場合のみ、以前に使用していたハードディスクをそのまま流用して使用することも可能です。

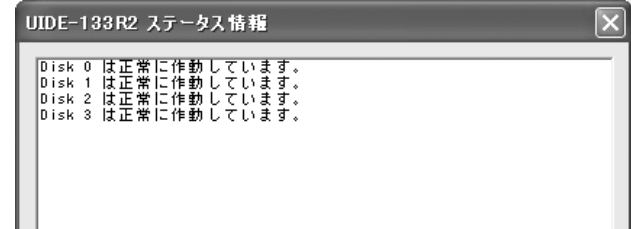
2. ユーティリティを起動する

RAIDを構築する場合、Windows上でインストールした「RaidMgrユーティリティ」を使って行います。ここではまず、「RaidMgrユーティリティ」の起動手順について説明します。

参考 ●「RaidMgrユーティリティ」は、[1 インストールする]でインストールされます。
●以降は、インストールした「RaidMgrユーティリティ」による設定手順です。設定は、本製品のパソコン起動時から起動できる「Setup Utility」でも設定できます。詳細は、別冊【③リファレンス編】を参照してください。

- 1 パソコンを起動します。
- 2 Windows起動後、以下のような画面(画面は本製品に4台のハードディスクを接続した場合の例です)が表示されます。右上の  をクリックして画面を閉じます。

▼4台ハードディスクを接続している場合の画面例



参考 ハードディスクの状態やRAID状態などを表示する画面です。この画面は、Windows起動後やRAID構築後などに表示されます。画面の[Disk 0]～[Disk 3]は以下を表します。
[Disk 0].....[プライマリマスター]のハードディスク
[Disk 1].....[プライマリスレーブ]のハードディスク
[Disk 2].....[セカンダリマスター]のハードディスク
[Disk 3].....[セカンダリスレーブ]のハードディスク
ハードディスクが接続されている場合、以下のように表示されます。
[Disk x]は正常に作動しています
ハードディスクが接続されていない場合、該当する[Disk x]の情報は表示されません。

3 デスクトップ画面右下のタスクトレイに登録されている[RaidMgr]アイコンを右クリックし、表示された[Open]をクリックします。



4 RaidMgr画面が表示されます。この画面から各種設定(以降の手順はストライピング構築手順)を行います。
※画面について、および、ストライピング以外の他のRAID設定については別冊【③リファレンス編】を参照してください。

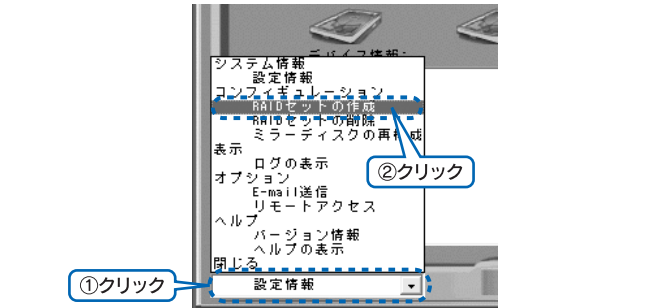



3. ストライピングを構築する

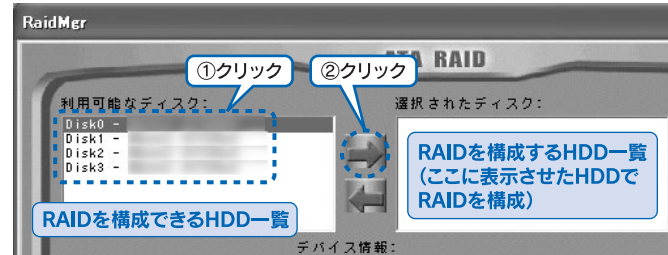
ストライピングを構築します。ストライピングは2台～4台まで設定できます。

注意 ●ストライピングを設定した時点でハードディスクを元に戻すことはできなくなります。(データはすべて消去されます。)構築するハードディスクは間違えないようご注意ください。
●設定時に選択するハードディスクの容量が異なる場合、総ディスク容量は「一番少ないディスク容量」×「台数」のディスク容量になります。
●設定時の選択順に関係なく、「プライマリマスター」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスター」→「セカンダリスレーブ」の優先順位でストライピングは構築されます。

1 RaidMgr画面左下のメニュー部分をクリック後、「RAIDセットの作成」をクリックします。



2 ストライピングを構築するハードディスクを選択後、 をクリックします。右の欄に選択したHDDが移動します。構築するハードディスクをすべて同様に選択します。



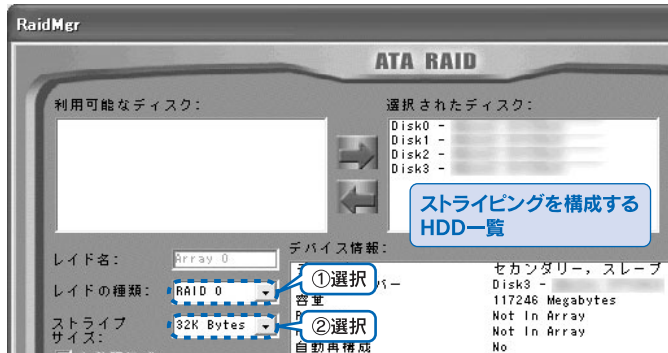
注意 ●選択するハードディスクは以下を表します。
[Disk 0].....[プライマリマスター]のハードディスク
[Disk 1].....[プライマリスレーブ]のハードディスク
[Disk 2].....[セカンダリマスター]のハードディスク
[Disk 3].....[セカンダリスレーブ]のハードディスク
●設定時の選択順に関係なく、「プライマリマスター」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスター」→「セカンダリスレーブ」の優先順位でストライピングは構築されます。

3 再起動後、ストライピングを構築したハードディスクをフォーマットしてください。

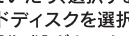
注意 ●フォーマット方法については本書には記載されておりません。ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

3 [レイドの種類]で[RAID 0](ストライピング)を選択し、[ストライプサイズ]([32K Bytes]をおすすめします)を選択します。

▼4台のハードディスクでストライピングを構築する場合の画面例



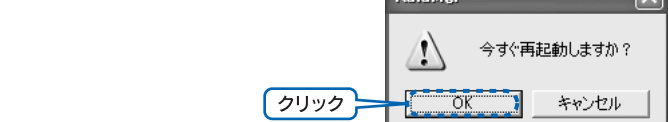
ストライプサイズ [32KB]推奨(初期値[64KB])
※この値は、データをどのくらいの大ききで分割するかを設定します。最適な値を設定することでパフォーマンスを向上させることができます。ただし、お使用の環境により最適な値は異なります。以下から選択できます。1K、2K、4K、8K、16K、32K、64K(バイト)

参考 ●選択を間違えていたり、選択するハードディスクを変更する場合は、右の欄のハードディスクを選択後、 で戻すことができます。RAIDを設定[作成]ボタンをクリック)するまでは、ハードディスクの情報は変更されません。

4 画面下の[作成]ボタンをクリックすればストライピングが構築されます。

注意 ●[作成]をクリックした時点で、ストライピングで選択したすべてのハードディスクのデータは消去されてしまいます。元に戻すことはできません。

5 以下の画面が表示されます。[OK]をクリックしてパソコンを再起動します。別のRAIDを構築する場合や再度設定し直す場合は「キャンセル」をクリックします。



注意 ●「キャンセル」をクリックしても、ストライピングで選択したすべてのハードディスクのデータは消去されてしまいます。元に戻すことはできません。

6 再起動後、ストライピングを構築したハードディスクをフォーマットしてください。

注意 ●フォーマット方法については本書には記載されておりません。ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

以上でハードディスクをストライピングでご利用になります。

RAIDの基礎知識 RAIDについて説明します。

RAID (Redundant Arrays of Inexpensive Disks) [レイド]
ディスクドライブを複数用いてディスクアレイを構成すること。低コストで大容量と高速処理を実現できる。1987年、米カリフォルニア大学バークレイ校のパーソン氏らがRAID1からRAID5を定義した。その後、1992年に設立されたRAIDメーカーの業界団体RAIDアドバイザリーボード(RAB)がRAID 0、RAID 6の定義を追加している。

参考 ●本製品が対応している方式
本製品が対応しているRAIDレベルは「RAID 0」、「RAID 1」、「RAID 0+1(1+0)」です。また、「RAID」には分類されませんが、「スパンニング(JBOD)」に対応しています。

ディスクアレイ
データをバイト単位などに分割し、複数のディスクに対して同時に読み書きするシステム。複数のディスクを理論的に1台として扱うことができる。

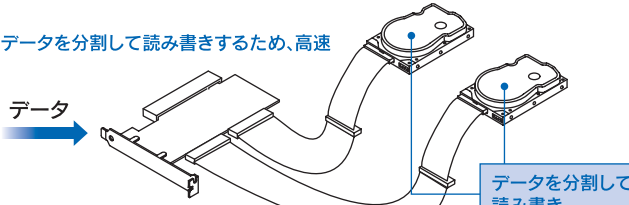
RAID 0: ストライピング

データをある一定の単位で分割(ストライプ化)し、同時に複数台のディスクに格納する方式。

利点 ●データの読み書きが速くなる。大容量ハードディスクとして使える。
欠点 ●1台でもディスクが壊れると、データを復旧できなくなる。容量の異なるディスクを使うと、一番少ない容量のディスクに合わせてディスク容量に無駄が生じる。

例 300Gと300Gのディスクでストライピング=600Gの高速ディスク
200Gと300Gのディスクでストライピング=400Gの高速ディスク

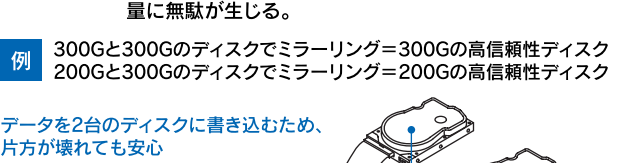
注意 ●ディスク破損とデータについて
ストライピングしたディスクのうち、1台でも壊れると全体のデータを読み出せなくなり、どのような手段を使ってもデータを復旧することはできません。予め、ご了承ください。



RAID 1: ミラーリング

まったく同じ内容のデータを2台のディスクに書き込む方式。
利点 ●片方のディスクが故障しても、正常なディスクで処理を継続できる。信頼性の高いシステムを構築できる。
欠点 ●ディスク容量の使用効率は悪い。容量の異なるディスクを使うと、一番少ない容量のディスクに合わせてディスク容量に無駄が生じる。

例 300Gと300Gのディスクでミラーリング=300Gの高信頼性ディスク
200Gと300Gのディスクでミラーリング=200Gの高信頼性ディスク



RAID 0+1(1+0): ストライピング+ミラーリング

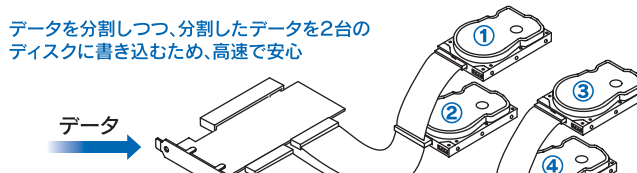
ストライピングとミラーリングの組み合わせ。ストライピングとミラーリングを組み合わせてシステムを構築する。計4台のディスクを使う方式。

利点 ●データの読み書きが速くなる。大容量ハードディスクとして使える。1台のディスクが故障しても、一番少ない容量のディスクに合わせるためディスク容量に無駄が生じる。

欠点 ●ディスク容量の使用効率は悪い。容量の異なるディスクを使うと、一番少ない容量のディスクに合わせるためディスク容量に無駄が生じる。

例 300G、300G、300G、300GのディスクでRAID 0+1=600Gの高速高信頼性ディスク
200G、200G、300G、300GのディスクでRAID 0+1=400Gの高速高信頼性ディスク

参考 ●ディスク破損とデータについて
複数のディスクが壊れると全体のデータを読み出せなくなり、どのような手段を使ってもデータを復旧できなくなる可能性があります。予め、ご了承ください。



①プライマリマスター
②プライマリスレーブ
③セカンダリマスター
④セカンダリスレーブ

●上記の場合、以下の設定となります。
①と②、③と④でそれぞれストライピングが構築されます。
①と③、②と④でそれぞれミラーリングが構築されます。

スパンニング(JBOD) [Just Bunch Of Disks]

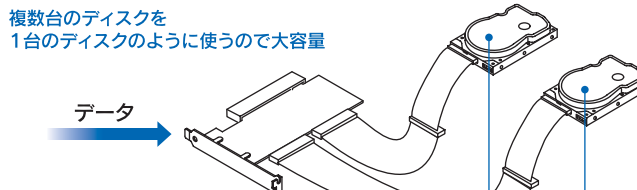
複数台のディスクを1台のディスクとして使う方式。

利点 ●大容量ハードディスクとして使える。ストライピングに比べ、ディスク容量の無駄がない。

例 200Gと300Gのディスクでスパンニング(JBOD)=500Gのディスク

欠点 ●1台でもディスクが壊れると、データを復旧できなくなる。ストライピングと異なり、データの読み書きは速くならない。

参考 ●ディスク破損とデータについて
スパンニング(JBOD)を構築したディスクのうち、1台でも壊れると全体のデータを読み出せなくなります。予め、ご了承ください。



困ったときには

本製品を使用してトラブルがあった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご確認ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考になさってください。

製品Q&A/Newsなど

<http://www.iodata.jp/support/>

添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポートライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

最新サポートソフト

<http://www.iodata.jp/lib/>

- 本製品取り付け後、パソコンが起動しない
- 本製品が動作しない
- [デバイスマネージャ]で"!マークがついている

対処 本製品が正しく取り付けられているかご確認ください。パソコンの電源を切り、再度本製品に接続したハードディスクのIDEケーブルや電源ケーブルが取り付けられているか、外れていないかを確認してください。

対処 本製品に割り当て可能なIRQなどのリソースが不足していないかご確認ください。(右の[参考]参照)

対処 プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。(リソースの変更方法に関しては、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。)リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、本製品に必要なに応じて使い分けてください。

対処 他の周辺機器を拡張スロットに増設した場合は、増設した周辺機器と割り込みやI/Oポートアドレスなどが重複している可能性があります。増設した周辺機器の取扱説明書を参照して、設定を確認してください。

●本製品使用中に動作が不安定になる

対処 本製品を接続しているPCIバススロットの位置を変えてみてください。

参考: 割り込みの空きを作る

本製品が正常に動作しない場合は、割り込みIRQの空き(以下の[割り込み(IRQ)の空きについて]参照)が無いことが原因の1つとして考えられます。

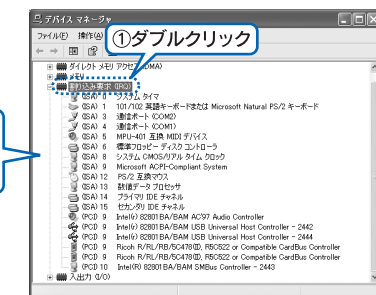
●割り込み(IRQ)の空きについて

本製品はパソコン本体の割り込み(IRQ)を使用します。ただし、本製品はプラグアンドプレイ対応ボードで、パソコン本体側ですべて自動的にリソース(IRQ等)が割り振られるため、本製品側でIRQの指定ができません。よってIRQの空きの確認(パソコン本体側のリソース(IRQ等)の割り振り)が正常か)など確認が必要となります。

割り込み(IRQ)の空きの確認方法

※画面はWindows XPのもので、特に指示のない限りWindows 2000でも手順は同じです。

- 1 Windowsを終了し、パソコンの電源を切ります。
- 2 本製品をPCIバススロットから取り外します。
- 3 [デバイスマネージャ]画面を開きます。(「デバイスマネージャ」画面の開き方については、表面[4]取り付けを確認する)参照)
- 4 [表示]メニューから[リソース(種類別)]をクリックします。
- 5 [割り込み要求(IRQ)]をダブルクリックして、割り込み(IRQ)の使用状況を確認します。



6 空きがない場合は、他の機能を外すなどをして空きを作ってください。詳細は各パソコンメーカーにご確認ください。

7 再起動して本製品、IDE機器を接続している場合はIDE機器が正常に動作するかご確認ください。

パソコン本体(マザーボード)のBIOSセットアップメニューで設定できる場合もあります。詳細は各パソコンメーカーにご確認ください。また、実装しているボードの取扱説明書も参照してください。